

良知館通信

山本義雄

良知館が藤樹書院の南隣に総合案内所として完成したのは平成十六年三月、今年で十年となります。休憩所を一つの足場に見学者には藤樹先生への理解を深めてもらい又教えを広めたいとの思いで開設されました。良知館は、公益財団法人藤樹書院が高島市から指定管理者となり開設当時より管理運営にあたっています。女性七名が交替でお茶接待、清掃、来客に館内での説明など観光ボランティアとしての心の交流に努めています。藤樹書院は男性七名が交替で訪問客に「近江聖人 中江藤樹」の生き方や教えを知って頂きリピーターを願って対応しています。

翁問答の中に「万民ごとごとく天地の子なればわれも人も人間のかたちあるほどのものはみな兄弟なり」とあります。武士が人の上にあつて世を支配した江戸時代に人間として生きるべき真実の道を求めて実践したのが近江聖人中江藤樹先生です。すべてを包み込む大きな心。人間への深い愛と畏敬。藤樹先生が熱い思いを込めて人々に語りかけてきた藤樹書院には今もその心が息づいています。

休憩所の良知館内では藤樹先生

の年譜、藤樹書院の年中行事、藤樹書院のあゆみ、近江聖人日本陽明学の始祖、致良知、愛敬等の項目別に解り易く説明板が掛けられています。ビデオコーナーでは逸話の数々のアニメや「今、藤樹先生に学ぶもの（童門先生に聞く）」、「ユートピア見つけた（ゆかりの跡とインタビュー）」、需式祭典、歴史街道近江聖人の里、映画「中江藤樹PR編」などがあります。正保四年、新春中江藤樹先生四十歳の作品「天上心なくして泰陽を生じ人間意あつて新生をよるこぶ人間天上も異なるなし日用の良知これ至誠」の漢詩も展示しています。第十三回パネル展示では三月七日の立志祭の様子が写真展示中です。

我が国最初の私塾である藤樹書院は人として如何に生きるべきかをお互いに考え学ぶ塾でした。先生は特に無学文盲の庶民に対する教育善導こそ何よりも大切と考え、農夫や馬方、商人など学びたい人はどんな人でも受け入れました。そこでは正直であること、人を思いやること、知恵を働かせることの三つの徳をたとい話をしながら共に学び実践していききました。藤樹書院の近辺の人はいつでも行けるなどという思いからか意外と来訪者が少ないので、より理解を深めて頂く為にもご来訪をお待ちしています。

新規賛助会員のご紹介

平成二十六年四月末現在で、本会の賛助会員として新規にご加入いただきました法人は次の通りです。

(敬称略)

ご協力ありがとうございます。

○有限会社 馬場塗装

高島市安曇川町川島

○ウエストレイクホテル可以登楼

高島市安曇川町中央

○株式会社 大山建設

高島市安曇川町西万木

○有限会社 白浜荘

高島市安曇川町下小川

○とも栄菓舗

高島市安曇川町田中

○有限会社 綿庄食品店

高島市勝野

総会・講演会のご案内

会員の皆様には、万障お繰り合わせの上ご参加ください。

日時 六月十四日(土)

午後四時総会の開会

場所 エルブライド寿光苑

▼引き続き、五時から講演会開催

演題 「生涯学習のまちづくり」

講師 滋賀大学准教授

横山幸司先生

▼その後の講師先生を交えての懇親会にも、是非ご参加ください。

あとがき

「ルール」とともに

毎年この時期に楽しみにしている山菜採りに、今年もわくわくしながら裏山に入りました。ねらうはゼンマイで、「にしめ」もさることながら、「ゼンマイの白和え」の右に出るものはありません。

子どもの頃、祖母に連れられてよくゼンマイ採りに出かけたものです。「ゼンマイには雄と雌があつて柔らかい雌だけを採るようにし、その中の一本は必ず残すように。」ときつく教えられました。

例え思ったように採れなくてもゼンマイをさがして谷を歩くのが、これまた楽しいものです。今年は晴天が続いたためか、例年の二倍くらいはありました。満足げに持ち帰って、一本一本ていねいに綿を取り除きます。昔は、この綿を糸で丸めてボールにして遊んだものでした。

山歩きの楽しさや採る楽しさ、食べる楽しさや遊ぶ楽しさを、「ルール」とともに今度は孫たちに伝えたいものです。(H・M)

お詫びと訂正

今回の会報発行が五回目であることから、前回の会報は「第四号」でした。お詫びして訂正いたします。